2-3. 水面利用に係わる意見等

1. 水面利用を進める上で支障となる施設等の点検結果

●点 検 日：平成 14 年９月３日

●点検区間：朝日町雪谷～寒河江市寒河江（寒河江水辺プラザ）

●点 検 者：山形県カヌー協会　加藤理事長・今井理事・大泉氏
山形河川国道事務所職員９名　　計 12 名

●点検結果：

朝日町雪谷～寒河江市寒河江（寒河江水辺プラザ）区間では、特に危険な障害物はないが、以下の事項は何らかの対策が必要である。

水面上の流木



やな場跡の木杭



最上堰（142k）はカヌーは魚道を下れるが、ボートは揚げ下ろしで堰を乗り越えなければならない。



水位観測所の量水標柱



2.「川の通信簿」点検結果（カヌー利用者の声）

項　目	意　　見	整備の必要性
1．景観	・自然がそのままというかんじでよい ・Ｖ字谷と急流がすばらしい	―
2．水のきれいさ	・水が汚れている（濁り・臭い・発泡）	
3．流れの状態	・カヌーにはベスト	―
4．ゴミの状態	・ゴミが浮いている、河岸に散乱している	
5．安全の状態	・釣り人と川遊びの人が混在し危ない ・危険箇所を知らせる看板がない	
6．河川敷への近づきやすさ	・道路がない	
7．広場の利用のしやすさ	・階段やスロープがない ・草が茂って入りにくい	
8．休息施設や木陰の状態	・あまり手を加えない方がよい ・平坦な場所がなくぬかるんでいる	
9．散策などの施設の状態	・数が足りない	
10．トイレの状態	・雪谷はトイレがない ・玉ノ井は数が不足	
11．案内看板の状態	・看板などの案内施設がない	
12．駐車場の状態	・ない	
13．その他	・カヌーコースの途中に休息施設や車をとめられる場所があればよい ・すばらしい川を間近に見られるポイントがほしい ・過度な整備はしないでほしい（自然を満喫するためにきているから）	

整備の方向性（案）

カヌーの活性化を進めるにあたって、トイレや更衣室などの最低限の設備は必要であるが、利用者は最上川とその周辺の自然を満喫するために朝日町でカヌーを楽しんでいることから、過度の整備はさけるようにする。